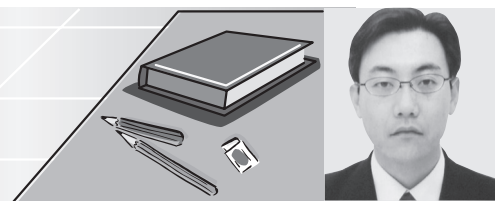


# 学生時代と図書館 91

## 「有益なる怠慢」

布施将夫



大学院生時代を含む非常に長い学生時代に私は、図書館に大いにお世話になったものである。大学で課されたレポートや試験の準備のため、いろいろな本を慌てて借り、急場を何とかしのぎ続けたものであった。こうした経験があまりにも多いため、以下では、それらの中でも印象に残った経験を一つ、恥を忍んで紹介しよう。

十数年前の出来事であったと記憶する。当時院生だった私は、所属する研究科の紀要に論文を投稿するため、図書館で史料を収集していた。その史料とは、19世紀半ばのアメリカ合衆国の連邦議会議事録で、*Congressional Globe*というものである。(なお、1873年以降の連邦議会議事録は、*Congressional Record*と改称する。)この史料、*Congressional Globe*は、19世紀に酸性紙に印刷された古いものであるため、紙がすでにボロボロで、「禁帯出」(持ち出し禁止)のラベルが背表紙に貼ってあった。また、そういう脆い状態であるため、図書館内で閲覧する場合でも、コピーすることは禁止であった。紙に触っただけで、指が黄色く汚れて驚いたことを懐かしく思い出す。

とはいえ当時の私は、この古びた史料の該当箇所を根拠にして、論文を執筆せねばならない切羽詰まった状況であった。ちなみに歴史学の論文では、論文の対象にした時代の一次史料(primary sources)をどこかで引用しなければ、査読段階で落とされかねない。それゆえ、この史料をぜひとも利用したい私は、自分の論文に使えるような史料の該当箇所を、必死でノートに書き写していった。世間は21世紀のIT時代になっていたのに、原始的な手作業をせざるをえない哀れな境遇を呪いながら…。

ただし、実は一つの戦略を、心中もくろんではいたのである。史料を丁寧に書き写していくしんどさや辛さを、図書館の司書の方にうまくアピールできれば、史料の必要箇所のごく一部

だけでもそのうちコピーさせてもらえるのではないかと。女性司書の根負けを狙って私は、わざとその前で手作業を苦しそうに続けたのであった。

そうしているとともに、司書の方はコピー機の方にあごをしゃくった後、コピー機に背を向けて座り直してくれたのである。つまり、機械の使用をほんの短時間だけ黙認してくれたのであった。喜び勇んだ私が、古い史料の必要箇所の残り数ページ分を、急いでコピーしたことは言うまでもない。これは、長くて暗い院生時代のなかでも、最も嬉しかった明るい出来事の一つであった。(なお、この図書館は、2014年に出版した拙著『補給戦と合衆国』松籟社の購入までしてくれている。)このように、図書館への感謝の念は、今現在も深まるばかりである。

では最後に、本記事のサブタイトル(副題)「有益なる怠慢」について簡単に説明し、締めくくりにしよう。この言葉は本来、18世紀前半まで、イギリス本国が北アメリカの植民地を統治する緩やかな方針、すなわち植民地側の大幅な自由裁量を認める傾向を指したものだ。18世紀後半に英本国が統治方針を厳格に改め、「有益なる怠慢」を撤回してから数十年後に、植民地側が自治を求めて、アメリカ独立戦争が勃発したのであった。この史実からは、法律や規則をきびしく適用するばかりだと、かえって不要な反発を招くという教訓が得られよう。

したがって、ここで伝えたいことは二つある。まず、一昔前の私が幸運にも享受できたような柔軟な姿勢を、今後の図書館にも持ち続けて欲しいという希望である。次に、図書館に柔軟さを求められるよう、利用者側も、誠実な対応を心がけようということだ。以上である。

ふせ まさお(講師・アメリカの政治史・軍事史・技術史)